



岡本かの子全集

第十五卷

TARO

岡本かの子全集 第一五卷
昭和五二年九月一〇日初版第一刷発行

著 者 岡本かの子

發行者 高橋直良

發行所 多樹社

東京都千代田區神田神保町二一八

電話東京二六四一〇三四六

振替東京八一七七五七

印刷所 株式會社太洋社

製本所 有限會社三和製本所

製函所 株式會社光陽紙器製作所

本文用紙抄造 王子製紙春日井工場

表紙用クロス 日本クロス株式會社

裝 畫 岡本太郎

裝 幀 栃折久美子

第十五卷 目次

母の手紙

第一章 滯歐中の書簡……………三

第二章 東京から巴里への書簡……………三

書簡

大貫きん子宛……………六

大貫雪之助宛……………六

大貫實家宛（一）……………六

新津光重宛……………六

中村安太郎宛……………一〇

堀口三枝宛	100
藤田啾湊宛	101
長澤美津宛	102
上田初生・近都世宛	102
紀伊國屋出版部「行動」宛	103
大貫實家宛（二）	111
石川忠雄宛	111
多門 房宛	112
岩里秋子宛	112
日野辰治宛	112
深尾須磨子宛	112
島崎藤村宛	113
川端康成宛	113
松下英麿宛	115

龜井勝一郎宛……………三三

座談會

女流作家を中心としたる漫談會

三宅やす子・吉屋信子・佐藤春夫・他……………二六

大阪の婦人を語る東京婦人の座談會

長谷川時雨・栗島すみ子・藤間房江・他……………二五

ジャン・ダーク座談會

宇野千代・さつきふさ・平林たい子・他……………二六

長谷川時雨「氷の雨」合評

片岡鐵兵・上田文子・辻山春子・他……………三五

婦人新歸朝者のみてきた社會相

千田是也・大田洋子・矢田津世子・他……………二九

外國から日本を見る

岩田豊雄・林芙美子・中村武羅夫・他……………三〇

結婚生活を幸福にする座談會

伊藤奎二・鳩山薫・丸木砂土・他……………三九

女流歌人座談會

今井邦子・阿部靜枝・杉浦翠子・他……………四〇

女性宗教談

伊藤朝子・西川文子・富本一枝・他……………四二

信心の篤い人々の信仰生活座談會

川村ます子・小山内登女子・今井よね・他……………四三

家庭を語る座談會

小泉郁子・平山信子・山室民子・他……………四六

「女流作家」検討座談會

中條百合子・宇野千代・平林たい子・他……………四八

未婚者の「貞操」について

芹澤光治良・河上徹太郎・武田麟太郎・他……………四九

窪田空穂氏を圍む座談會

宇野浩二・植松壽樹・森山啓・他……………四六

志賀直哉の人と藝術

瀧井孝作・武田麟太郎・小林秀雄……………四七

戀愛と結婚の新古典主義時代來る

圓地文子・今日出海・林房雄・他……………四八

傷ついた兵士の體驗を聽く

山田傳・宮西正人・菊池東之助・他……………五七

解題・校訂……………五三

書簡・座談會

母の手紙

第一章 滯歐中の書簡

自昭和五年
至昭和七年

父の手紙と母の添へがき

紙の手母

タゴシ（太郎註 私を呼ぶ時の父等の愛稱、始め太郎氏と呼んだのがにごつたもの、以下同じ）
君の手紙みんなで讀んだ。君の手紙の書振りが悉しく確りしてるので感心もし安心もした。元氣でしつか
りやつて呉れ。回送の手紙も届いた。

君の送つた宿屋のメニューを見ると相當に食物があるやうだがビタミンを攝るため果ものを食べるのを

忘れないやうに。

小鳥にサラダをやる苦心のところはみんなで大に笑つた。

佛蘭西語の學校は急に勉強しなくてもいい。どうせ自然に覺えるのだからたゞ眞面目に根氣よくやつてればいい。

僕の方、この二十五日まで日本旅館のトキワホテルに居て二十六日からハムステッドのこの家へ越した。一軒建の家を借りたのだ。

この邊は倫敦の北の郊外で前は公園のやうになつてゐる。静なところだ。客間と食堂の外四間あり、それにバスと臺所がついてゐる。全く僕の家の人數には適當な家だ。この家を道具や裝飾附で貸して呉れて一週四磅^{ポンド}づゝだ。

主人が支那小説の老作家なので裝飾に支那や日本の古いものが主にある。

おかあさんは家がひどく氣に入つてすつかり元氣になつてすぐ活動を始めた。米や野菜を買出して來て日本を出てから始めて御飯を食べる氣持がするといつてゐる。なんでもこの家に住んで一人二百圓ぐらゐで暮せる計算だ。

こゝで小一年辛抱して大に節約する積りだ。

僕はついた翌日から新聞用の軍縮會議のスケッチの仕事始めた。一晩だけ徹夜した。徹夜して仕事してると僕等親子はいよゝゝ世界の眞中で勉強するといふ氣がつくゝする。元氣でゆつくり根氣よくやつてくれ。

この月末から毎月二百五十圓づゝ倫敦の住友銀行支店から巴里日佛銀行支店宛に送る事に定めた。毎月々始めに日佛銀行のN——さんのところへ行き受取り給へ。そしてこの金高の中で總てうまく經濟を立てゝ下

さい。

毎月残つたものは日佛銀行かその他適當の銀行へ預けて豫備金にして下さい。

二十八日（昭和五年）

太郎様

岡本一平

僕は地下鐵道に獨りで乗つて何處へでも行ける。もうタクシーの御厄介にはならない。

★

二三日前から洋服を着てます、働きよくて實に便利です。丘を何丁も買出しに行くのにすこしも疲れず、男と同じ様な早さで歩ける。

生れ變つたやうな活潑な人間になりました。

體からだも達者になりました。これからおひるの仕度。（かの子）

かの子

夜ふかしせず早起きするのが體のため。

パリーのもつと高尚な健實の處を自分で感覺せよ。

註

父母は私を巴里の素人下宿に預け、ロンドンへ行き、そこで家を持つたときの手紙である。

父母は、一人で残る私が寂しからふと、上海で買った小鳥入りの鳥籠を私に置いていつた。私は言葉がまだ自由なので小鳥の餌のサラダを下宿の女中から貰ふのに骨が折れた。

父母は一年後巴里へ戻り、そこで費用を充分に使ふつもりで、ロンドンでは節約してゐたらしい。

この夏、私はロンドンの父母の家へ行き、ひと夏を過した。

母は旅中も巴里でもよく病氣したが、ロンドンへ落付いてからは大たい健康になつたらしい。

ハムステッド公園から町へ出るのに坂がある。母が輕装して靴の踏み音高く坂を上り下りする元氣な姿が想ひ出される。

★

むす子はこのごろどうして暮して居るの。

私はゆんべからすこしメランコリになつて泣いてばかり居るのよ。

慰めにつてみんなが活動へ連れて行く處なの、むす子のおばあさんである私の母をおもひ出すのよ。武藏野のね、野菜の淨らかに育つ處のね。死んだお母さんをおもひ出すのよ。だつてむす子はどうせパリジャンだし私は追憶ぐらいしなきやつまんじゃないもの。

二十六日夕

二十七日朝、むす子はちやき／＼のパリジャンになりつつあるのだらうね。でもしよがないと今朝はあきらめ出したのよ。少し元氣になつたけどノドがいたくつてかぜひいたやうなのよ。むす子を見たいとおもふよ。でも英國つて實に藝術的にはつままない處で、あへて呼ぶ氣にもなれないほど呼んでは氣の毒なくらい

よ。思想的には少しは研究する點はあるけど。

漫畫家の Keren と Derso に遇つたことよ。非常に好人達よ。

R I 氏はお前を面倒見て呉れる？

根本は自分をたよりにしなければならぬのよ。

目標をずっと高い所に置かれよ。

セザンヌにまだ感激して居ますか。こちらせい／＼けんやくして暮して居るが他人にはしはく（あまり）しない。おん身もその事／＼。

夏のはじめ來られるかい？

註 ケレンとデルソはフランスの有名な漫畫家。

レターペーパー一枚裏表

太郎はどうして手紙をよこさないの。

おとうさんが氣をくさらせてふさいでるのよ。ブジカなんと電報でもうたうかしらつて。

パパはロンドンに來てゐるフランスの漫畫家や批評家に大變はめられて居るのですつて。それでその爲には幸福らしく見うけられるけれど何だか淋しさうな時があるの。大方太郎が手紙をよこさないからでせうよ。

すつかり洋服になつちまつたの、私は。似合つても似合はなくつても自信を持つつもりよ。便利で前よりも十層倍も運動するしハウス・ウォークも出来るの。寫眞とつて送りませうかね。頭痛なんかちつともしませんよ。丘を十丁もあるいて買物に出たり、毎日町へ出てあるかなければ氣もちがわるくなるほど運動好きになつた。(註 こゝまでペンにて)

これはお前の手紙來ぬうち書いたものゝ書きかけなり(註 これは鉛筆にて)

父の手紙に添書きのもの

以下かの子

苦勞はお互ひだからするだけしやうよ。私も知らぬ他國で家をもつて下女や近所つきあひや自分の服裝までに苦勞しぬいて今日あたりからやつとおちつけます。

四日

若きたごしへ

★

でも近所では私がおとなしくて品の好い日本人だとうはさしてる。方々でお茶に呼んで呉れます。玆はまったく好い處です。天然を利用した公園のなか冬だのに好い聲の鳥など啼いて居ます。まだ日本へ一本も手紙など出せる餘裕がありませんでした。今日からくらゐ出せます。

苦勞して下さい。苦勞は人を偉くします。たゞし下手に苦勞すると狡くなるしすれからしになる。其處をうまくそうならないやうに苦勞すべし。

今、私の着て居る服は上下で八圓（ジャケツ）です。寫眞を誰かにとつてもらつて送ります。

私、英國のペンクラブ K——といふ人が紹介して入れて呉れます。ゴルスワージーなども居る會です、ゴルスワージーはこの Hampstead に棲んでいます。まづ萬福、

西洋レターペーパー二枚

タロの手紙ついた。

今度の處は覺えにくい様でなんだか手紙出しにくい。

例のもつたいぶつたインケンの Y——といふ男があまり好くない處のはてるとかなんとか云つてたがお前の常識にまかせさほどとやかく云ふまい。

事實さういふ處なのかとも少しは思つて案じて居るが、私はあの Y——といふ男がしんから嫌ひだからまあすぐやつきとなつて本當にもしない。自分の支配下でない事は何でもインケンのチク／＼と皮肉つたりケチをつける、男だから。Y——がパリへ歸つてもあまり世話になんさんな。

鼻のおどきを氣をつけなさい、ツメでむしつてはいけないよ。

こつちの丘にもイスター（復活祭）でジブシーの見世物小屋だの、賭ごとの見世だの一ばいだよ。